

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200638		
法人名	社会福祉法人 むべの里		
事業所名	グループホーム山門		
所在地	宇部市山門四丁目6番24号		
自己評価作成日	平成26年1月29日	評価結果市町受理日	平成26年9月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成26年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

目 的	地域に開かれた老人福祉を実施する事を目的としている。
運営方針	思いやりとやさしさを持って、お年寄りの自立と尊厳を大切にする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所独自のケア方針に添って、利用者一人ひとりの思いを大切に、ゆったりと和やかにすごせるように家庭的な雰囲気づくりに努めておられ、リビングは、利用者を気遣い転ばないように動線を考えた家具の配置されたり、利用者同士のふれあいを考慮した新たなソファを購入されるなど、細やかな心遣いが感じられます。室内に飾る作品づくりや手芸、習字、絵手紙、フラワーアレンジメント、大正琴を弾く、買物、掃除など、これまでの趣味や生活歴を活かし、一人ひとりに合った楽しみごとや活躍できる場面を多くつくられ、利用者がいつも表情豊かに日々過ごせるように工夫しておられます。新たな協力医療機関による24時間対応の医療連携体制は、重度化や終末期ケアへの取り組みとして、利用者や家族の安心に繋げておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の生活の中で地域の行事に参加したり、行動範囲の限られた方には、個別対応として園庭に椅子を出して日光浴等していたきながら、散歩されているご近所の方と挨拶等してもらっている。	法人の理念を基に作成した事業所独自のケア方針を理念として、事業所内に掲示している。管理者と職員は会議の中で理念について話し合い、共有して、利用者の思いを大切にしたい個別対応の支援に努め、理念の実践につなげている。、	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア(絵手紙、手芸、奇術クラブ、大正琴、フラダンス等)の受け入れを行ったり、職場体験学習で学生さんに入ってもらったりしている。昨年は受け入れがなかったが本年は受け入れ予定となっている	自治会に加入し、自治会行事の祭りやどんど焼きに利用者と一緒に参加し、交流している。事業所主催の山門祭りや月に1回開催している健康教室に参加する地域の人と交流している他、ボランティアの来訪がある。散歩時に出会う保育園児や小学生との交流、買物時や散歩時に近所の人と挨拶を交わしたり、季節の花や野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年5月には山門祭りを開催、又、6月より第二土曜日に地域の方に向けて健康教室を開催し地域の皆様に向けた情報発信を行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	出来る事から少しずつ取り組めるよう努力している。グループホーム会議にて職員全員で自己評価に取り組んだ。	管理者が評価の意義について説明し、前回の評価結果を全職員に配付し、月1回の山門会議で全職員で話し合いまとめている。前回の評価結果を受けて、事故防止の取り組みや研修の充実などについて、月1回勉強会を始めるなど、改善に取り組んでいるが、全職員での評価の意義の理解と活用までには至っていない。	・評価項目の理解と活用
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、市高齢福祉課職員、家族、全利用者参加にて、近況報告や利用者の状況、活動報告をし意見交換している。5グループホーム合同の運営推進会議では、文化交流会の行事について話し合いサービス向上に努めている	年4回開催し、利用者の状況や活動状況、事故報告、外部評価等の報告をして、意見交換をしている。同じ日に避難訓練を実施し、参加者からは日頃からの訓練の大切さや安全な避難経路の確保についての意見や文化交流会への利用者の作品展示等の提案があり、サービス向上に活かしている。	・会議の開催回数の検討 ・地域メンバーの拡大

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	月2回介護相談員に入ってもらい気付いた 事を聞いたり相談したりしている。又、生活保 護受給者や、介護保険関係などで担当の課 との連絡相談をしサービスの質の向上に努 めている	市担当課とは、運営推進会議の他、電話や 直接出向いて情報交換や介護保険更新申請 等について相談し、助言を得るなど協力関 係を築くように取り組んでいる。月2回市の介 護相談員(2名)が訪問しているが、訪問でき ないときには市の職員が代わりに訪問してい る。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同志スピーチロックをしないよう気を付 けているが、無意識のうちに声掛けを行って いる。玄関は、施錠せず、デイサービスの職 員と協力して見守り体制を続けている。	内部研修で学び、職員は身体拘束の内容や 弊害について理解している。スピーチロックに ついては、管理者が指導する他、職員間でも 互いに注意し合っている。玄関には施錠をし ないで外出を察知した場合は一緒に出かけ るなど全職員が身体拘束をしないケアに取り 組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	会議の時に話しあったり職員同志お互いに 注意し、声を掛けあっている。(言葉による虐 待等)又、入浴時全身観察をしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	管理者が勉強会に行き、学んだ事を会議で 報告している。又、必要な人には支援してい る。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	事前に契約書・重要事項説明を行い、ご家 族にも不安の無い様にしてご利用していた だけのように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者がくつろいでおられる時に、気になる事や希望を聞くようにしている。又、介護相談員の受け入れにより入居者やご家族に不満のないような環境作りが出来る様に努めている。	相談や苦情の受付体制や処理手続き、外部機関、第三者委員を明示し、契約時に利用者や家族に説明している。運営推進会議時や面会時、行事参加時等で家族の意見や要望を聞いている他、毎月1回、利用者の担当職員が利用者の様子を文書で詳細に伝えており、家族からの意見や提案が出やすい関係づくりに努めている。家族からの意見や要望は申し送りノートに記録し、職員間で共有している。医療機関への入院手続きや移送方法等についての意見を反映させている。月2回、市の介護相談員(2名)が来訪し、利用者の意見等を聞いて事業所に伝えている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全職会議や山門会議に参加して提案を聞いている。又、何かあれば本部に相談し対応している。	月1回の山門会議や全職会議で直接意見や提案を聞く機会を設けている他、休憩時間を利用して意見や提案が気軽に言えるような雰囲気づくりに努めている。利用者全員が思い思いの場所に座ることができるようソファの整備や更衣室の衝立、洗濯物干しの設置、制服についての意見や提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得は向け、研修会や講習会への積極的な参加を促している。又、法人での人事考課により一人ずつ評価している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会にも本人の意思を尊重し参加できる環境作りに努めている。	外部研修は、本人の希望による自己研修や本部からの段階別研修の機会を確保し、段階別の研修は勤務の一環として受講の機会を提供し、受講後は復命をしている。法人では法人内のグループホーム交流会を実施し参加している。内部研修は月1回実施し、管理者を講師として認知症についてや接遇、コミュニケーション、身体拘束、家族対応等について実施している。新人職員は、日常の業務の中で先輩職員から介護の知識や技術を学んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流会への参加や地域ブロック内での研修会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回訪問を行い本人さんとも話して溶け込みやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に話を聞いて、不安を解消して頂けるようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方にとって一番必要なサービスは何かを見極め、適切なサービスの紹介を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方に何が出来るかを見極め自分でも人の役に立っていると思っただけのよう支援している。又、人生の先輩として相談したり尋ねたりしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来園された時、日々の暮らしであった事をお話したり、今の状況を説明し、家族の方に安心して頂けるように努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外食等のお誘いがあれば体調を見て出かけていただいている。	家族や親戚、近所の人、職場の仲間、趣味の仲間、友人などの来訪がある他、友人や知人と外出や食事、お茶会、会合などに出かけている。電話や手紙の支援の他、家族の協力を得て、盆、正月の外泊、法事への出席、墓参り、地域行事(おいらん道中)の見学、馴染みの店での買物、外食をするなど馴染みの人や場との関係が途切れないよう、支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝いの声掛け、ねぎらいの声掛けなどは平等にし、一人ひとりの方が気持ちよくお手伝いしていただけるように心掛けている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞いに行ったり、相談にのったりして、不安がないようにしていただけるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で聞きとった言葉や、思いを汲み取って把握に努め、一人ひとりの思いや意向を介護計画に反映できるよう努めている。	入居時の申込み記録やフェイスシートの中で家族や本人からの基本情報をもとに趣味や好きなこと、どのように暮らしたいかを把握し、日々のケアの中での会話などから思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い本人本意に検討している。	・思いや意向の把握方法の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを見て、今迄の生活歴を理解し対応している。又、ご家族や本人の話の中から知るように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の流れを記録に残し、気になる事は、詳しく記録している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの担当を決め、3ヶ月に1回ケアプランを立て、ケース会議を開き話し合いを行っている。出来上がった計画書は、御家族に印鑑をもらい一部渡している。	利用者を担当する職員と計画作成担当者を中心に月1回カンファレンスを開催し、主治医や本人、家族の意見を参考にして職員間で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直している他、要望や状況に変化が生じた場合は、その都度見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チェック表や記録を見て、その都度ケアプランの見直しを共に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、併設の通所介護へ伺って気分転換を図っている。又、ご家族が行かれない時は、病院受診の付添いをしたり、買い物に行ったりしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れを行ったり、その方に必要な様々な機関等を把握して、すぐに対応出来るように努力している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に医療機関と連絡を取り、報告、指示を仰いでいる。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。25年12月から、新たに事業所に近い場所の協力医療機関への変更があり、月2回の訪問診療や24時間対応が可能となったことから、ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としている。他科受診は家族の協力を得て事業所が支援し、受診結果は主治医や家族に電話で連絡をして情報を共有しているなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心配事や、気になる事があれば連絡を取り助言してもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より、担当医、看護師と連絡を取り早期に退院できるように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から、主治医やご家族と連絡を取りながら体調確認を行っているが、医療が必要になった方は、重度になる前に住替えをお願いしている。	重度化や終末期の支援について事業所のできることを契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族やかかりつけ医と話し合い、医療機関への移設も含めて方針を全員で共有し、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	何かあれば、主治医や訪問看護師に連絡を取り、指示を仰ぎ対応している。初期対応の訓練は定期的に行っていない為、夜間帯で一人の時は、不安な時もある。その為、早め早めの受診を心掛けている。	ヒヤリハット、事故報告書は、発生の都度、その場に居た職員で話し合って対応策等を記録し、ケース会議で話し合い、一人ひとりの事故防止に努めている。事故防止マニュアルを基にその都度対応しているが、応急手当や初期対応の実践的訓練を行うまでには至っていない。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練をしている。又、近くのセブンイレブンのオーナーさんをお願いし、緊急時は従業員の方に来て頂く様お願いしている。	年2回、消防署の協力を得て、昼間の火災を想定した避難訓練、避難経路の確認、消火訓練、通報訓練を併設のデイサービスと合同で利用者と一緒に実施している。1回は運営推進会議と同じ日に、運営推進会議メンバーや利用者と一緒に実施している。運営推進会議のメンバーから避難経路に外灯をつけるなどの安全にかかわる意見が出ている他、非常食の備蓄については近所のコンビニエンスストアと話し合っているが、夜間想定の実践的訓練の実施や地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・夜間想定の実践的訓練の実施 ・地域との協力体制
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に話しかける言葉の内容や、語調などが誇りを傷つけたり、プライバシーをそこねる事のないように気を付けている。	内部研修(接遇)で学び、職員は理解して、一人ひとりの人格の尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。管理者は入浴時や排泄時の言葉かけに注意するよう指導している。個人記録は保管し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には、ゆっくりした時に希望等をお聞きしている。無理な方には、ご家族にお聞きしたり生活歴を参考にして対応している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに添いたい出来る範囲やその日の状況に応じて動いている時もある為、職員ペースになっているところもある。少しでもゆったりした気持ちで一人ひとりの希望に添えるよう努力したい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好みの洋服を着ていただいているが、自己決定出来ない方は、職員が選んでいる。散髪は、毎月出張サービスを利用している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作り料理で食べたいものを作ったり、外食に行って好きな物を食べてもらったりしている。又、食事の準備や片づけなども利用者と一緒に行っている。	朝食は事業所で用意し、昼食と夕食は法人からの配食を利用し、三食のご飯は事業所で炊いている。利用者は台拭き、茶碗を拭く、トレイ拭き、配膳、箸を配る、盛り付け、お茶汲みなどできることを職員と一緒にしている。月2回は季節のものや利用者の好みを聞いて献立をたてて、手づくりランチ(シチューやすき焼き、肉じゃが、サラダなど)をつくったり、芋団子やおやき、ぜんざいなどのおやつを職員と一緒につくっている他、月1回の外食(自分の好きなメニューを選択)など、食事を楽しむことができるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下が困難な方にはトロミをつけたり、一口大に切ったりして対応している。又、本人が食べられないものがある時は、栄養士と相談し他の食品で対応している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。夕食後は義歯の方は、外して曜日を決め洗浄液につけている。歯ブラシは夕食後全員消毒している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間帯を決め声掛け誘導や介助を行い、出来る限りトイレで排泄してもらよう支援している。排泄チェック表に個別に記入し一目でわかるようにしている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンやリズムを把握して、さり気ない言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1リットル以上の水分補給及び朝の掃除、ラジオ体操、ホール内歩行、散歩などを取り入れ便秘解消に努めている。又、昨年11月よりヤクルトを毎日飲んでいただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴はしているが、どうしても時間帯を決めて入って頂くようになってしまう。少しでも、利用者の希望に添えるようにして行きたい。	入浴時間は15時30分から16時30分までの間で希望すれば毎日でも入浴できる。個浴や2人浴、介護者の有無、湯の温度、入浴剤の利用など個々に応じて対応し、くつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない人には、言葉かけの工夫や職員の交代、時間の変更などで対応している。利用者の状態によっては清拭やシャワー浴、足浴など、一人ひとりに応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせ、昼寝をしていただくように取り組んでいる。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の体調により、主治医や看護師に連絡を取り、服薬確認や薬の変更を行っている。しかし全員の職員がすべて理解出来ているとは言い難い。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、食事の準備や片づけ、洗濯物を干したりたたんだり等、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割や、ビデオ鑑賞、頭の体操、フラダンス、大正琴、フラワーアレンジメントなど楽しみごとに参加することで気分転換がはかれよう努力している。	新聞、雑誌を読む、日記を付ける、テレビ視聴、ビデオ鑑賞(時代劇など)、手芸、習字、絵手紙、フラワーアレンジメント、カルタ、トランプ、大正琴を弾く、健康体操、ラジオ体操、豆つかみ、棒の引っ張り合い、脳トレ(計算や漢字ドリル)、ボランティアの来訪、掃除、草取り、食事の準備や後片付け、洗濯物を干す、たたむ、買い物、外食など、一人ひとりに合った楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり、楽しみや張り合いのある毎日となるように支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、ドライブを兼ねての外食、日光浴、お地藏さんの参りなどその時々に応じて、短時間でも戸外に出る機会を作るようにしている。	散歩や買い物、お地藏さん参り、日光浴、季節の花見(桜、梅、つつじ、菖蒲等)、紅葉狩り、ドライブ、外食の他、家族の協力を得て、地域行事(おいらん道中)の見学や墓参り、自宅へ帰宅するなど本人の希望に添って戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は自分で持っておられた方もいたが、お金がどこにいったか分からなくなる為、ご家族の了解を得て全員ホームで預かっている。買い物に行った時は、預かった中からだしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話や手紙が来る時は、おつなぎしている。又、帰宅願望を訴えられた時は、いつ電話しても対応していただけるようにしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	おやつや食事時は好きな音楽をかけたり、四季を感じてもらえるよう季節の花を飾っている。又、季節ごとに写真を貼りかえたりしている。	利用者が集うリビングは明るく、季節の花を飾り、壁面には年間の行事写真や季節の花の写真、利用者の習字などを掲示し、季節感のある室内となっている。室内は広く、転ばないように動線を考えて家具を配置している。リビングの中央にあるキッチンからはご飯の炊ける匂いがして生活感が感じられる。テレビの前には全員が座れる大きなソファがあり、利用者は思い思いの場所に座ってくつろいでいる。加湿器を設置して温度や湿度、換気、音などに配慮し、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置いて、利用者同士会話が出来るようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの物を持ち込んでもらったり、家族の写真等飾ってもらっている。	居室の入り口には本人と担当職員の写真を飾っている。テレビ、仏壇、家族写真、衣装ケース、タンス、洋服掛け、時計、椅子、祝色紙、自作手作り作品、記録メモ紙など使い慣れた物や好みの物を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動きやすいように家具を配置したり、ベット柵を付けてご本人が起居しやすいようにしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム山門

作成日： 平成 26年 8月 30 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	24	思いや意向の把握方法の工夫	センター方式の勉強をし職員全員が使いこなせるようにする	入居時の申し込み記録やフェイスシートの中でご家族や本人様からの基本情報を基に、趣味や好きな事どのように暮らしたいかを把握し、センター方式を勉強してきた職員と一緒にセンター方式シートに記入していく	2年間
2	35	応急手当や初期対応の定期的訓練の実施	毎月1回山門会議終了後、月2回訪問の看護師や隣のデイサービスの看護師にアドバイスをもらいながら勉強会を開催する	平成26年8月…事故発生時対応(8/29済) 平成26年9,10月…転倒・骨折・応急処置 平成26年11,12月…感染症、インフルエンザ予防 平成27年1,2月…誤嚥、誤薬 平成27年3,4月…バイタルサイン測定、表皮剥離 平成27年5,6,7月…AEDの使い方、まとめ	1年間
3	36	夜間想定訓練の実施 地域との協力体制	年間最低2回、夜間を想定した訓練の実施	平成26年8月29日(金)夜間想定訓練実施済み 平成27年2月中旬ごろ実施予定	1年間
4	5	会議の開催回数の検討	年間6回の運営推進会議の開催	平成26年5月(金) 第1回開催済み 平成26年8月26日(金)第2回開催済み 平成26年9月15日(月)第3回開催予定 平成26年10月19日(日)第4回開催予定 平成26年12月24日(水)第5回開催予定 平成27年2月中頃 第6回開催予定	1年間
5	5	地域メンバーの拡大	1人でも多くの職種の方に参加して頂く	民生児童委員協議会会長 森本久美子様 民生児童委員協議会副会長 厚見 信子様 山門(前)自治会長 三原 泰子様 参加了解済み	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。